

共同鑑賞行われる 難民問題を考えるきっかけに

THE GOOD LIE
グッド・ライ
～いちばん優しい嘘～



▲共同鑑賞は今回で45回目だった。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

ねがはる市10月16日に彦根市の共同鑑賞
が行われた。今年度は「グッド・ライ」が選
ばれた。優秀な嘘と生徒と保護者が鑑賞した。

『THE GOOD LIE』は

「いちばん優しい嘘」は難民問題を題材に描かれた作品だ。2000年代初頭。難民であるスーダン南部出身のマメル、ジェレマイア、ポールのアメリカへの移住が決定する。しかしポールの姉であるアビタルだけ移住先が違ふことが発覚。3人に職を紹介することがなくなった職業紹介所のキャリーは4人が一緒に暮らせるよう奮闘する。

人権教育課課長である雨川有喜男先生はこの映画が選ばれた理由を「生徒のみんなに自分たちができることを考えてほしかった。難民問題はあまり触れる機会がない問題だがこの映画を通して少しでも

向き合えるよう選んだ」と笑顔を見せられた。また難民問題の認知度について「先生たちのなかでも難民について詳しく知っている人は少ない。それが表している通り、日本に住んでいる大人はあまり難民問題について知らないし、子供となればなおさらだろう。勉強などで忙しい高校生はさらに知るきっかけがなく、もっと難民に関する問題について知らないはずだ。この映画で少しでも関心を持つてほしい」と明かされた。

最後に鑑賞の雰囲気について「この映画は舞台が日本ではないうえ、私たちにあまり接点がなく、考えることが少ない問題に関する話だった。だからみんなが真剣に観てく

改めて考える

翌日に行われたLHRで生徒たちはクラス内で班に分かれ、映画の感想を話し合ったり難民問題について議論を交わしたりして映画について振り返った。生徒たちは難民問題に対する考えを深めた。

れるか心配だったが、みんなしっかりと観てくれたのでよかった」と微笑まれた。共同鑑賞に参加した生徒からは「身近な問題ではなく、普段の生活の中であまり意識できない課題だったのが今回の映画から本当にこのようなことが起こっている」と実感することできた。「姉弟が再開するシーンなどで感動して涙が止まらなくなった」などの感想が



▶雨川先生は難民問題について考えを深めてほしいと話された。

寄せられた。